

第2回第11採択地区教科用図書採択協議会 議事録

開催年月日	令和5年7月12日(水)	
開催場所	鶴ヶ島市役所 504会議室	
開催時間	13:30 ~ 16:30	
教育委員会	出席者	
坂戸市	太田 正久 教育長	小川 一信 教育長職務代理者
鶴ヶ島市	松井 克彦 教育長	石澤 良浩 教育長職務代理者
毛呂山町	高沢 佳弘 教育長	寄崎 順子 教育委員
越生町	原口 仁 教育長	青柳 高 教育長職務代理者
	事務局	
	教育部参事 学校教育課長 指導主事	深谷 朋代 立元 亮 小竹 里恵子
1 開 会	(司会)鶴ヶ島市教育委員会学校教育課長	
2 あいさつ	(会長)	
3 日程等	(司会) 次に、本日の日程等について、ご説明いたします。 議長につきましては、協議会要綱第7条により会長に議長をお願いいたします。 本日の日程ですが、令和6年度使用小学校教科用図書について、専門員長より研究結果を報告していただきます。 各教科の調査結果を報告したのち、質疑、応答の時間を設定いたします。それでは、これより、議長を会長をお願いいたします。 (議長) 協議が慎重に進められ、適切な選定がなされますよう、ご協力をお願いします。 議題に入る前に、本会議については、第1回採択協議会において、第2回会議は全て公開すると決定しております。したがって、本日の会議は、非公開とすべき項目はないということで進めてまいります。	
4 教科用図書 研究結果の報告	(議長) それでは、次第4「専門員の教科用図書研究結果の報告及び質疑応答について」に入ります。こ	

及び質疑応答	れから、小学校各教科の研究結果報告を行います。理科、生活において信州教育出版社からは調査研究用の教科書見本が提供されなかったため、第11採択地区での調査研究は行われておりません。しかし、教科書目録には掲載されておりますので、選定の対象には含まれております。埼玉県からの調査資料には掲載されておりますので、判断の際に参考にさせていただき、よろしくお願いします。 (議長) それでは、これより各教科の研究結果報告を行います。 国語、書写の専門員を入室させてください。 それでは、はじめに、国語について説明をお願いします。 (専門員) これより、国語科調査研究の結果を説明いたします。国語科では、三者について調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、国語は観点1「言語活動について」、観点2「情報の扱い方に関する事項について」、「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。 それでは、まず東京書籍についてご報告申し上げます。 はじめに観点1＜言語活動について＞です。教科書を開くと、単元扉に大きな写真やイラスト、下段に「国語の学習の流れ」が掲載されており、教材への興味・期待を持たせることができます。また、単元ごとに学習を通して身に付けることを「言葉の力」として示すことで、見通しをもって学習に取り組むことができます。終わりの「ふり返る」ページは、他ページと異なった色を用いることで、学習の大切なことが振り返りやすくなっています。しかし、現在使われている教科書会社と俳句と短歌の扱う学年が違うので、もし教科書会社が変わる場合、短歌を学習しないことになってしまう学年が出てしまうので気を付けなければならないと考えます。 次に観点2＜情報の扱い方に関する事項について＞です。図書館や社会教育施設の活用に関する単元では、写真を多く使い、学年に応じた活用方法や調べ学習の方法を具体的に示しています。また、情報を見極めながら読み、「情報のとびら」で知識の定着を図り、情報を活用して自分の考えを書くという単元間のつながりを意識した単元配列となっています。重ねて、スマートフォンやインターネット(SNSなど)、現代の世の中で使っているものが学習内容に入っています。 最後に＜その他＞です。デジタル資料が充実しています。学習者用PC端末を活用したデジタルノートや練習問題を解くこともできます。教科書の持ち運びについては、
--------	--

高学年(5・6年生)は学年1冊。となっています。

次に教育出版についてご報告申し上げます。

はじめに観点1＜言語活動について＞です。「言葉」「言葉をふやそう」のコーナーでは、文法的な知識や考え方を使って読みを深めたり、教材と関連付けて語彙を増やしたりできるようになっています。学習のめあてが単元のはじめと学習の手引きに示しており、単元扉を見るとどのような言語活動で何を学ぶかがわかります。指導事項と言語活動の2つの観点で振り返りができるようになっています。しかし、学習の手引きでは上段の学習活動と下段の図解や反応例は、対応を明確にするためのスペースなどを入れた方がわかりやすいと感じました。巻頭「〇年生で学ぶこと」は領域ごとにまとめてあり、学習したことが実生活のどのような場面で役立つのかが例示されています。しかし、どの言語活動が活用できるのか具体的ではありません。

次に観点2＜情報の扱い方に関する事項について＞です。

5年生「新聞を読もう」の単元後に「情報ノート」というように学んだことをいかした単元配列になっています。巻末付録に「情報のまとめ」のコーナーがありますが、内容の取扱いの少なさや参照ページを参考にしても学習のつながりのわかりづらさを感じました。重ねて、資料の特徴が具体的に説明されておらず、どのような時に、どのような資料を活用すればよいのかがわかりづらい印象も受けました。

最後に＜その他＞です。単元ごとに紹介される本の紹介「本を読もう」では、表紙だけでなく、あらすじも載せており、図書紹介が充実し、本に触れる機会を増やせるようになっています。

教科書の持ち運びについては、全学年上下2巻になっているので、年間1冊よりも軽く、持ち運びやすいです。

次に光村図書出版についてご報告申し上げます。

はじめに観点1＜言語活動について＞です。単元の扉が必要最低限の学習のめあて(「問いをもとう」)のみでまとめてあることで、期待感をもって読み進めることができます。重ねて一人一人の問いから学習を始めさせる工夫がされているので、問いから目標へとつなげることが可能となり、主体的に学習に取り組めます。上段は学習活動、下段に学習のポイントとなっていて、わかりやすいと感じました。また、巻頭に「国語の学びを見わたそう」を設け、既習事項の確認と一年間の学びの流れが一目で分かるようになっています。重ねて、学習の流れが詳しく書かれていて、わかりやすいです。目標やそれに対応した振り返り、他教科や他教材での学習のいかし方が特に詳しく書かれていました。

次に観点2＜情報の扱い方に関する事項について＞です。アンケートの取り方やまと

め方、資料の特徴などについて詳しく説明されていて、資料の活用の仕方がわかりやすいです。巻末付録の見開きに「図を使って考えよう」のコーナーが設けられ、情報や考えを整理したり、広げたりするときに役立つ手立てがわかりやすく載っています。「集めた情報を整理して伝える学習」をしたあとに、グラフや図のよさをいかして文を書く単元の配列になっています。

最後に＜その他＞です。巻頭「どうやってまなんでいくのかな」や巻末「言葉の宝箱」、「図を使って考えよう」は、紙質を変え、ページ幅が短くなっています。

教科書の持ち運びについては、高学年(5・6年生)は学年1冊となっています。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

児童の「言語感覚を養う」ために、どのような工夫がみられるでしょうか。

(専門員)

言語感覚を養うことについては、3者とも、全学年または2年生以上で、音読や表現活動を通して、言葉のもつよさや日本語の美しさを味わえるように工夫されていました。

(議長)

よろしいでしょうか。それでは以上で国語の質疑を終了します。

引き続き、書写について説明をお願いします。

(専門員)

次に書写について、調査研究の結果を説明いたします。

書写は観点1「書写にかかわる基礎的・基本的な技能について」、観点2「主体的な学びを支える資料・構成について」、「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

東京書籍についてご報告申し上げます。

はじめに観点1＜書写にかかわる基礎的・基本的な技能について＞です。はじめに持ち方・姿勢など、基本的なことが確認できます。右利き、左利きも同じ大きさの写真で示されていて、目で見て確認できるように工夫されています。単元の最初によい字とそうでない字の比較があり、比べることで学びの意欲がわくこと、正しい筆脈や組み

立て方について学ぶことができます。しかし、毛筆で練習した字を鉛筆で書く欄がありません。

次に観点2＜主体的な学びを支える資料・構成について＞です。巻頭に「おかしな〇〇」という話題を提示して、文字に対する困り感から興味を引かせる工夫がされていることで、これからの学習への意欲付けとなっています。書写の学び方の中に「考えたことを友達と話し合ってみよう」を設け、児童同士の学び合いの場面を提示しています。書写の学び方を示すことで、学習の見通しが持てるようになっています。書写で学んだことを普段の生活やほかの教科の学習に広げていくことまでを示しています。

最後に＜その他＞です。文字の歴史ページや文字に込められた思いについてのページがあり、文字について興味を持たせる工夫があります。QRコードを読み込むと、動画と音声で書くときの様子や筆遣いのポイントを細かく知ることができます。

次に教育出版についてご報告申し上げます。

はじめに観点1＜書写にかかわる基礎的・基本的な技能について＞です。文字の組み立て方が見やすい色で色分けされており、学習者が意識しやすい工夫がなされています。どの学習する文字も、朱色で書かれている文字も一緒に載っており、穂先がどこを通っているのかがわかりやすいです。試し書きとまとめ書きで振り返ることができ、さらに、主教材の文字で学んだ原理原則に当てはまるほかの文字で応用が図れるようになっています。

次に観点2＜主体的な学びを支える資料・構成について＞です。巻頭に写真やマンガ、イラストを多く使い、その学年で学習する書写の学習について興味を引くような工夫がされており、児童の関心を高めることができます。また、1時間の学習の進め方が示されており、学習の流れがわかり主体的に学習に取り組むことができるようになっています。さらに、めあてがはっきりと青色で書かれていて、つかみやすいです。重ねて、めあてに対して考えてほしいことも書かれているので、主体的に学びながら書くことができます。

最後に＜その他＞です。筆遣いの説明に動物や擬音語・擬態語を使って例えることで、画の方向を意識できるようになっています。また、QRコードから硬筆と水書の書き方の動画を見ることができます。

次に光村図書出版についてご報告申し上げます。

はじめに観点1＜書写にかかわる基礎的・基本的な技能について＞です。1年生のはじめに「スタートブック」があり、文字を書き始める前に大切な、文字を書く姿勢、鉛筆の持ち方など基本的なことが確認できます。しかし、学年によって手本が鉛筆または

フェルトペンで書いたような書体の字であり、使用する筆記具によって、よい見本と
ならない場合があると考えます。さらに、筆圧や筆遣いについて数字と言葉での説明
が多く、力の入れ方や筆遣いが伝わりづらい印象を受けました。

次に観点2＜主体的な学びを支える資料・構成について＞です。

ねらいやたしかめようの中で、自分が書いたものの振り返りを進んで取り組むことが
できます。しかし、巻頭に導入のページがなく、約束や学習の進め方が書かれている
のみなので、書写の学習に対する興味を引く工夫が少ない印象です。さらに、活用の
文字数は少なくなっていると感じました。

最後に＜その他＞です。書写体操・整理体操があり、姿勢と筆記用具の持ち方が定着
するような体操が考えられています。QRコードを読み込むと、右手用・左手用の動画
があり、利き手に関わらず、筆の持ち方などを丁寧に指導することができます。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

書写の教科書を国語科と同じ教科書会社としなくてもよいのでしょうか。

(専門員)

出版社の関連性ということも考えられますが、書写学習を通して各教科の学習活動や日常生
活にいかすことのできる書写の能力を育成することが重要となりますので、必ずしも国語と
同じ発行者にしなければならないわけではないと考えております。

(議長)

よろしいでしょうか。それでは以上で書写の質疑を終了します。

専門員の方、ありがとうございました。退出してください。

(議長)

それでは、社会について説明をお願いします。

(専門員)

これより、社会科の調査研究結果を説明いたします。

社会科では3者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「ICTも含め、資料の種類や読み取りやすさについて」、「思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫について」、「その他」の3つを設定しました。

その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「東京書籍・新編新しい社会」について、調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、「【観点1】ICTも含め、資料の種類や読み取りやすさについて」、ご説明いたします。

豊富な図表やイラスト、写真が使用されています。資料の大きさも大きく、見やすさやわかりやすさを意識して構成されています。

「〇〇さんの話」の部分でのインタビュー等、QRコードによる映像資料では、実際に教科書に出てくる人の映像が使用されており、より実感をもって学ぶことができると思います。

全体的に文字による情報が多く、QRコードによる資料の数が比較的少ない印象を受けます。

次に、「【観点2】思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫について」、ご説明いたします。

「つかむ」「調べる」「まとめる」といった学習の流れがわかりやすく、「まなび方コーナー」では、思考を促し、表現をしやすくなるよう工夫されています。

まとめの部分など、教科書に書き込みができるページが多く、今まで学習してきた「キーワード」を活用してまとめられるよう工夫されています。

最後に、「【その他】」についてご説明いたします。

5年生では上巻と下巻、6年生では政治・国際編と歴史編の2冊に分冊されており、教科書の重さへの配慮がうかがわれます。

次に、「【教育出版・小学社会】」についてご報告いたします。

はじめに、「【観点1】ICTも含め、資料の種類や読み取りやすさについて」、ご説明いたします。

写真資料が大きく見やすいものとなっています。特に6年歴史では白黒の写真がカラー化されており、児童の気づきを促すよう工夫されています。

QRコードには動画、ワークシートなど5～6種類のマークがついており、そのマークによって資料の内容がどのようなものかわかるようになっています。

学習の進め方のページが多い分、資料が読み取りにくくなっているところが見られます。

次に、「【観点2】思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫について」、ご説明いたします。

教科書の使い方の動画があったり、「つかむ」「調べる」「まとめる」の流れが各ページに記載されていたりするなど、学習者が主体的に学べる工夫が見られます。

「まとめる」場面では、既習の「キーワード」を活用して多様なまとめ方ができるよう工夫されています。

最後に、「【その他】」についてご説明いたします。

5年生以外はページ数が他社よりも多く、情報量が多い印象を受けます。

最後に、「【日本文教出版・小学社会】」についてご報告いたします。

はじめに、「【観点1】ICTも含め、資料の種類や読み取りやすさについて」、ご説明いたします。

QRコードによる動画やワークシート等の資料が充実しており、タブレットを活用しての学習を意識したものとなっています。

教科書内で取り上げられている地域事例には偏りがなく、全国の様々な地域からの資料が集められています。

グラフ資料が豊富で、児童が操作できるICT資料も見られます。また、各学年の学習内容に配慮したグラフが使用されています。

次に、「【観点2】思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫について」、ご説明いたします。

問題の発見から追究・解決、そしてまとめ、という流れが展開しやすいよう、各ページの構成が工夫されています。

「まとめる」場面での話し合いの仕方についての解説や思考ツールを用いた分類方法などが3年生用の教科書から登場しています。

最後に、「【その他】」についてご説明いたします。

現代の諸課題への意識を高められるようSDGsすべての目標を取り上げています。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

資料を通して学ぶということが重要だと考えていますが、資料の活用に力を入れているのはどこでしょうか。

(専門員)

どの発行者も一人一台端末を使用した学習を想定した構成となっています。また、とりわけQRコードを読み取ることによる資料はこれまでより内容が充実したものとなっています。

(議長)

よろしいでしょうか。それでは以上で社会の質疑を終了します。

(議長)

引き続き、地図について説明をお願いします。

(専門員)

それでは続いて、地図の調査研究結果を説明いたします。

地図については、観点を「知識及び技能が習得されるようにするための工夫について」、「地図の見やすさ、わかりやすさに関する表記、表現について」、「その他」の3つを設定しました。その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「東京書籍・新編新しい地図帳」について、調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、「【観点1】知識及び技能が習得されるようにするための工夫について」、ご説明いたします。各国の特色を示す世界地図や地図の使い方の説明が冒頭から14ページにわたり掲載されており、特に地図帳の使い方に関して丁寧に解説されています。イラストや写真が多用されており、地域の風景や文化、生活様式などが具体的にイメージしやすい内容となっています。

次に、「【観点2】地図の見やすさ、わかりやすさに関する表記、表現について」、ご説明いたします。地名の文字や大きさ、産業の記号など、読み取りやすさや見やすさへの工夫や配慮が施されています。QRコードによる資料の中には、都道府県別の地図がPDFデータで収録されていますが、地図帳と同じ表現の地図と白地図のみであり、活用の幅が限られてしまうのではと思われます。

最後に、「【その他】」についてご説明いたします。

日本の歴史に関する内容のところでは、世界史との関連も掲載されており、豊富な内容となっています。

次に、「【帝国書院・楽しく学ぶ小学生の地図帳】」についてご報告いたします。

はじめに、「【観点1】知識及び技能が習得されるようにするための工夫について」、ご

説明いたします。巻頭で地図の約束、地図帳の使い方等について14ページにわたり解説されています。大きめの図や地図記号等、児童が親しみをもって地図の学習に取り組めるよう配慮されています。

「地図マスターへの道」という問いが100問用意されています。地図活用の技能とともに位置や空間的広がりに着目して社会的見方・考え方を養えるよう工夫されています。

次に、「【観点2】地図の見やすさ、わかりやすさに関する表記、表現について」、ご説明いたします。

「広く見わたす地図」の部分では、日本の領土について、各地方の位置関係や名産品などを把握しやすいよう、縮尺、文字や記号の大きさに工夫が見られます。

QRコードによる資料について、特に各都道府県の様子に関する地図の内容が豊富で充実しており、都道府県別の学習に有効であると思われます。

最後に、「【その他】」についてご説明いたします。

巻末に掲載されている編集協力者の数が多く、現場の声が編集に反映されていることがうかがわれます。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)(なし)

(議長)

ないようですので、以上で社会・地図の質疑を終了します。

専門員の方、ありがとうございました。退出してください。

(議長)

それでは、算数について説明をお願いします。

(専門員)

これより、算数科調査研究の結果を説明いたします。算数科では6者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「数学的な見方・考え方を育成するための工夫について」、「習熟度に応じた活動を充実するための工夫について」、「そ

の他」の3つを設定し、その結果については、お手元の報告書の通りです。

それでは、【東京書籍】について調査研究結果を観点に沿って、ご報告申し上げます。

はじめに、「数学的な見方・考え方を育成するための工夫について」ご説明いたします。1点目として、問題解決のためのヒントを途中まで留め、児童が数学的な見方・考え方をはたらかせて解決する構成となっており、数学的な見方・考え方の育成が図られています。

2点目としてめあて、手がかり、見方・考え方、まとめが明確であり、特にまとめではどのような見方・考え方を使っているか児童にとって分かりやすい表現及び表記となっています。

3点目として 単元末に「つないでいこう算数の目 大切な見方・考え方」が設定されていて数学的な見方・考え方や系統性を踏まえた単元のふり返りができるようになっています。

次に、「習熟度に応じた活動を充実するための工夫について」ご説明いたします。1点目として練習問題とリンクした補充問題が全単元に設定されています。また、基礎・基本の問題と少し難しい問題の2段階で構成され習熟に応じて取り組める工夫がされています。

2点目として、紙面にある練習問題をデジタルコンテンツにし、正誤判定、ヒントや解説、正誤の履歴表示などの機能があり、個に応じて練習に取り組むことができる工夫になっています。

最後に、「その他」についてご説明いたします。デジタルコンテンツの量と質の向上が図られており、児童が自力解決する際に、図形の操作や数値の変更など、様々な場面を試したり考えたりできるようになっています。

続いて、【大日本図書】について、ご報告申し上げます。

はじめに、「数学的な見方・考え方を育成するための工夫について」ご説明いたします。1点目として問題解決の流れを具体的に提示したり、答えや考え方の一部を見せずに児童に考えさせ気づきを促したりする工夫が多くみられます。

2点目として本時のまとめでは、考え方に焦点を当てた「発見！考え方」が掲載されています。学習を進める中で、これまでの考え方と統合できるように工夫されています。

3点目として問題解決のためのヒントや説明が細かく分かりやすい反面、児童が自ら数学的な見方・考え方をはたらかせるための提示の仕方に工夫が必要です。

次に、「習熟度に応じた活動を充実するための工夫について」ご説明いたします。1点目として、練習問題、単元末の「たしかめよう」など、問題が充実していて、習熟度に応

じた学習ができます。また、青丸と白丸で色分けされていることで、問題量の調整ができます。

2点目として、巻末資料「プラス・ワン」が設定されていることで、習熟度、進度に応じて学習に取り組めます。問題も单元ごとに見やすく、やや発展的なレベルで設定されています。

最後に、「その他」について説明いたします。「なるほど算数教室」、「学んだことを生かそう」など、算数が社会に生かされていることを実感したり学んだことを生活に生かしたりする問題が設定されています。

続いて、【学校図書】について、ご報告申し上げます。

はじめに、「数学的な見方・考え方を育成するための工夫について」ご説明いたします。1点目として数学的な見方・考え方が「考え方モンスター」で示され、活用場面を例示することで、児童が意識して数学的な見方・考え方を活用できるように工夫されています。

2点目としてめあてとまとめが分かりやすく、「つながりの?」、「つなげたいな」を提示することで、授業の流れに連続性が生まれ、児童が主体的に学習できるように工夫されています。

3点目として割合の学習では、4マス関係表を用いた立式が強調されているため、児童が機械的な処理の習得だけにとどまらないよう、授業の工夫が必要だと思います。次に、「習熟度に応じた活動を充実するための工夫について」ご説明いたします。1点目として「算数パトロール隊」のページを設け、児童が間違いやすい問題に対し、誤答やつまずきやすい内容を具体的に示してあります。

2点目として練習問題において身近な数値や学習したことを活用する問題が設定されていますが、補充問題、デジタルコンテンツは少なく、更に個に応じた問題やヒントの工夫があるよいと思います。

最後に、「その他」について説明いたします。

AB版により紙面にゆとりがあり、作業や書き込みがしやすい製本となっています。

続いて、【教育出版】についてご報告申し上げます。

はじめに、「数学的な見方・考え方を育成するための工夫について」ご説明いたします。1点目として、思考の過程を「はてな・なるほど・だったら」の順で示し、数学的な見方・考え方をはたらかせ、児童の問いの連続で学習を進められるように工夫されています。

2点目として、問題解決において未完成の数直線を用い、不足している部分を児童に補わせることによって、数の大小や順序、系列を視覚的、直感的に把握できるよう

に工夫されています。

3点目として本時のめあてとまとめの記述や表記が分かりにくく、本時は何について学ぶのか、何を学んだのか、学びのふり返りがしやすいように授業者の工夫が必要だと思います。

次に、「習熟度に応じた活動を充実するための工夫について」ご説明いたします。1点目として練習問題に加え、巻末の補充問題で「きほんの問題」と「ジャンプ問題」を設定し、習熟度に応じて取り組める工夫がされています。

2点目としてまとめアニメーションや作図手順、操作を伴った教材のデジタルコンテンツを掲載していますがやや数が少ないようです。更に練習問題等のヒントなどもさらに増えるとよいと思います。

最後に、「その他」について説明いたします。単元末の「ふり返ろう」ではイラストで解説したり、児童のつまづきを支援する「考えるヒント」を示したりして、低位の児童に定着を図る工夫がされています。

続いて、【啓林館】についてご報告申し上げます。

はじめに、「数学的な見方・考え方を育成するための工夫について」ご説明いたします。1点目として各時間の「めあて」「まとめ」のほか、単元の初めに単元全体のめあてが示されており、見通しを持って学習できるよう工夫されています。

2点目として単元中「算数ポケット」や単元末「学びのまとめ やってみよう」など、学んだことを活用できる発展的なテーマ、問題が設定されていて数学的活動の充実が期待できると思います。

3点目としてめあての後に、考え方のヒントや数直線等の解答例も少なく、すぐにまとめが掲載されており、授業者の力量が問われると思います。

次に、「習熟度に応じた活動を充実するための工夫について」ご説明いたします。

1点目として巻末資料「学びのサポート じゅんび」により、低位の児童も学習に参加しやすいと思います。また、「学びのサポート もっと練習」が設定され進度や習熟度に応じた取組ができると思います。

2点目として単元末の「練習」や「たしかめよう」では、デジタルコンテンツでヒントと答えを確認することができ、習熟度に応じてヒントを確認しつつ問題を進めることができます。

最後に、「その他」について説明いたします。主問題に設定されているスマートレクチャーや、単元末の「練習」や「たしかめよう」ではデジタルコンテンツでヒントと答えを確認することができ、自学自習に活用できると思います。

続いて、【日本文教】についてご報告申し上げます。

はじめに、「数学的な見方・考え方を育成するための工夫について」ご説明いたします。

1点目としてめあての近くに「見方・考え方」が配置され、さらに、具体的な視点も記述されており、活用しやすい工夫となっています。

2点目として単元末で「わかっているかな」や「見方・考え方をみがこう」で、児童のつまずきや数学的な見方・考え方の成長を意識した構成となっています。

3点目として問題解決のための支援となる吹き出しや内容が詳しく丁寧で、児童が自ら数学的な見方・考え方をはたらかせるために、内容や提示の仕方に工夫が必要であると思います。

次に、「習熟度に応じた活動を充実するための工夫について」ご説明いたします。

1点目として「わかっているかな」で、まちがいやすい問題が設定されていることで、低位の児童への習熟が期待できます。

2点目として巻末に「しっかりチェック」「ぐっとチャレンジ」「もっとジャンプ」の問題が設定されていることで、習熟度に応じた学習を行うことができると思います。

最後に、「その他」について説明いたします。理解を深めるための動画やアニメーション、ヒントの提示など、デジタルコンテンツが掲載されています。コンテンツに見出しが表示されていて種類が分かりやすくなっています。

説明は、以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

単元によっては既習を振り返ってから学習に入る方が児童の理解がしやすいと思います。より本質を突いた振り返りの工夫がされている教科書はあるでしょうか。

(専門員)

児童にとって、既習事項を振り返ってから学習に入るのはとても大切なことだと思います。その点では、どの発行者も復習や導入の課題の提示の場面でこれまでの学習を振り返り、思い起こさせるような工夫がされています。特に小学校5年生の少数の掛け算、割り算をみると、その中でも東京書籍、啓林館、日本文教がこれまでの計算の仕方、また計算のきまりを取り上げたりして問題解決の中で使えるような工夫がされています。

(議長)

よろしいでしょうか。それでは以上で算数の質疑を終了します。
専門員の方、ありがとうございました。退出してください。

(議長)

ここで10分間の休憩といたします。再開は14時35分です。よろしくお願いいたします。

《休憩》

(議長)

再開します。それでは、理科の専門員を入室させてください。

(議長)

理科について説明をお願いします。

(専門員)

理科では5者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしましては、「理科の問題解決の流れに沿った構成について」「地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料等について」「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。
はじめに「理科の問題解決の流れに沿った構成」について、主なものをご説明いたします。問題解決の過程を1本の「学びのライン」でつないで、学びの流れを分かりやすく示しています。児童にとって思考の流れを意識した学習活動を行うことができます。

次に「地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料等」について、主なものをご説明いたします。当地区で盛んだった養蚕については最も充実した作りになっています。特に飼育の様子や富岡製糸場の写真もあり、伝統と文化の重要性を社会科などとの教科横断的な学習も可能になっています。

最後に「その他」について、主なものをご説明いたします。

教科書のサイズが大日本図書と同じく最も大きいことで、その広い紙面を生かして、文字が大きく読みやすく、レイアウトも工夫されています。

次に、「大日本図書」について、ご報告申し上げます。

はじめに「理科の問題解決の流れに沿った構成」について、主なものをご説明いたし

	ます。 「問題」に対しての「結論」がシンプルに書かれており、「問題」の答えとして成立した表記になっています。 次に、「地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料等」について、主なものをご説明いたします。 巻末に掲載されている観察・実験などの既習内容については、単元の中に掲載されているほうが、学びのつながりや連続性を意識しやすいと思われます。 次に、「その他」について、ご説明いたします。 QRコードの数は、5者の中で最も多い569個であり、これを利用することで、さらに1175コンテンツにアクセスできます。また、QRコードから何が確認できるのかが、QRコードの横に明記されているので、児童や教師が見る必要があるのかどうかを、あらかじめ確認できるように工夫されています。 次に、「学校図書」について、ご報告申し上げます。 はじめに「理科の問題解決の流れに沿った構成」について、主なものをご説明いたします。 単元の導入のページの「ふりカエル(理科モンスターの1つ)」のQRコードから、過去に学習した単元で関連性のある学習内容をクイズ形式で復習することができるようになっていきます。 次に「地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料等」について、主なものをご説明いたします。 単元「風のはたらき」において、他者では「風で動く車」を教材として使用していますが、唯一、「風車」を使用しています。「風で動く車」を使用したほうが、後出の「ゴムで動く車」の考察において、「風の力」と「ゴムの力」は、同じエネルギーであることが理解しやすいと思われます。 最後に、「その他」について、主なものをご説明いたします。 日常生活に見られる理科についての紹介があり、理科と日常生活又は社会とのつながりが分かりやすく示されています。 次に、「教育出版」について、ご報告申し上げます。 はじめに「理科の問題解決の流れに沿った構成」について、主なものをご説明いたします。 単元導入ページの「学習前の〇〇さん」と単元末ページの「学習後の〇〇さん」をそれぞれ示すことで、児童が学習を通して、自分の成長を実感できるように工夫されています。
--	--

次に、「地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料等」について、主なものをご説明いたします。

当地区の産業でもあった養蚕について、唯一掲載されていません。少しでも、触れるように単元構成されているほうが、理科と伝統文化のつながりについて学びが深まると思われます。

最後に、「その他」について、主なものをご説明いたします。

児童が覚えるべき言葉について、太字だけでなく黄色で色付けして強調されており、見えやすくなっています。

最後に、「啓林館」について、ご報告申し上げます。

はじめに「理科の問題解決の流れに沿った構成」について、主のものをご説明いたします。

巻頭の「理科の楽しみ方」では、問題解決の過程を、「見つける・調べる・まとめる」の3段階に分け、これを理科の「学びのサイクル」として、わかりやすく図で示されています。

次に、「地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料等」について、主なものをご説明いたします。

巻末の「植物たんけんシート」が教科書から切り離すことができ、水や汚れにも強い加工が施されています。また、スケールも付いており、シート1枚だけで、地域のフィールドワークが楽しめるようになっています。

最後に、「その他」について、主なものをご説明いたします。

「理科の広場(発展)」では、中学校の学習内容が豊富に記載されており、児童の興味に応じて紹介しているなどの工夫が見られます。

以上です。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

家庭・地域社会との連携について、教科書ではどのような内容を掲載しているか教えていただけますか。

(専門員)

どの発行者も家庭や地域社会との連携について内容が掲載されています。家庭との連携については、夏休みなどの家庭学習で活用できるように「自由研究」があったり、感染症による休校などで、自学自習ができるように「ふり返ろう」があったりしています。また、地域社会と

の連携については、地域の図書館や、博物館や科学館などの社会教育施設を活用した活動を掲載しています。

(議長)

よろしいでしょうか。それでは以上で理科の質疑を終了します。専門員の方、ありがとうございました。退出してください。

(議長)

生活について説明をお願いします。

(専門員)

これより、生活科調査研究の結果を説明いたします。生活科では6者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、教科書で大切にしたい「絵や写真等資料のレイアウトについて」、思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫を観る観点として「体験的な活動の例示」、そして「その他」の3つの項目を設定いたしました。

その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでははじめに「東京書籍」について調査研究結果を観点にそってご報告申し上げます。

「絵や写真等資料のレイアウトについて」でございますが、視点を工夫した様々な角度からの写真を大きく中央に配置し、季節ごとの暮らしの絵を同じ構成にして季節を比較しやすくしております。また、まとめとしての児童同士の交流を、ページ全体を使いイラストで示しており、随所に「やくそく」「ちゅうい」等のマークを配置しています。

次に「体験的活動の例示」についてですが、活動を広めるためのヒントや「見方・考え方」の学習に沿った具体例が挙げられており、「指導に活用しやすい」という点がまずあげられます。また、夏の遊び図鑑や秋のおもちゃ図鑑の例示がわかりやすく、巻末に活動便利手帳として体験的活動を例示されています。さらに「自分でできることをしよう」の単元では、具体的な活動が多く例示されています。一方、単元ごとのページでは、発展的な活動例示がやや少なくなっています

次に「その他」の項目として、QRコードを使ったインターネット資料が充実しており、一覧をもとに検索もしやすく動画資料やクイズ問題が多く用意されているという特徴が見受けられます。また、スタートブックを巻頭に載せ、入学前からのスムーズな接続

が意識されております。一方、保護者向けのコーナーがつくられているが、教科書は家に持ち帰ることが少なく、保護者の目に触れることもあまりないので別の形での対応も考えられると思われます。

次に大日本図書についてご説明いたします。

まずは、「絵や写真等資料のレイアウト」についてでございますが、活動場面の写真やイラストを大きく提示し、活動意欲を高める工夫がされております。一方、全体的にやや余白が多く、色づかいが薄いことや吹き出しの囲みのない部分も工夫が欲しいこと、イラストで夏に長袖の子供が多いことなど季節感がわかりづらいことが気になります。また、2年生の街探検の学習で着目させたい風景が主に1年生が使うと思われる上巻に掲載されておりました。

次に「体験的活動の例示」についてでございます。

児童同士の交流を増やしたり、思考を深めたりする吹き出しと共に体験的活動が例示されております。

一方、上巻に野菜と花が同時に取り上げられており、この地区では野菜は2年生で取り上げているので、実態とずれている状況があります。また動物の飼育も行っていない学校が増えており、同様です。そして単元ごと例示の量に差があり、秋のおもちゃ作りの材料や作り方の例示が少ない状況がございました。

最後に「その他」でございますが、活動例はQRコードをもとにしたインターネット資料に多く掲載されており、人とのかわりが深まるようなきらきら言葉、生活言葉の豊富な掲載は子供の語彙が増えてよいという利点がございます。

一方、書き込み形式の教科書となっているが、実際の活動に時間を費やすことや掲示のためのカードを使うことを考えると、必要性があまり感じられないことがあげられます。

次に学校図書についてご説明いたします。

はじめに、「絵や写真等資料のレイアウト」についてでございますが、写真や絵をふんだんに活用し、どの単元も同じ構成により学習のイメージがしやすいよう工夫されております。また、野菜の育て方例やワークシートなど多様で、選択の幅を持たせております。

一方、単元のまとめに関する写真やイラストが少なく、季節を比較するイラストの配置が前半に偏っております。

次に「体験的活動の例示」についてでございますが、巻末に発表の仕方や道具の使い方についての例示が多く掲載され、物知りノートに詳しく書いてあり、ほとんど網羅されております。おもちゃも数が多いです。また、キャラクターの発言をもとに活動の必

要性を児童から引き出そうとしていると同時に、友達の助言等を見て自ら体験等を考えられるようにされております。一方、他教科との関連を意識した資料が示されておりますが、教科名の表示がないので工夫が必要です。

最後に「その他」の項目でございますが、学習後も活動を通して得たスキルを持続させたいとコーナーを設定している特徴がございます。一方、QRコンテンツの素材が少なく、独自の映像や教科書により合った画像がもう少し欲しいです。そして、活動場面のイラストや写真の中でタブレットの活用例がやや少ないことも気になります。

次に、教育出版についてご説明いたします。

はじめに、「絵や写真等資料のレイアウト」についてです。表情豊かな子供の写真をどのページにも活用していることや、ページ下に「はっけんろうど」というコーナーが配置されていることで、活動の楽しさを提示するつくりとなっております。

また、四角い写真がきれいに配置され活動から振り返りまで順を追って掲載しております。さらにタブレットを使用した活動を取り扱っているものが多いです。

ただ、下巻の季節の投げかけ「夏を楽しむくふうはどこ」や「北風がはこんでくるものはなあに」などは限定的で答えを導きづらく工夫が必要であると思われます。

次に、「体験的活動の例示」についてでございますが、下巻ではおもちゃの作り方や生き物のことを伝え合う活動例が豊富に掲載されております。一方、上巻の秋のおもちゃの具体例はやや少ないです。また、写真や書き込み欄等が中心になっており、学びのヒントが少なく工夫が必要であると思われます。

最後に「その他」の項目でございますが、QRコードでその場面の音読が聞けることや、デジタル図鑑が工夫され自分で調べる練習になる形態であること、クイズを多用していて意欲を持たせる工夫がなされていること、動画の掲載が多いことなどインターネットコンテンツが充実しているがあげられます。また、「もしも…」と空想するコンテンツを毎单元入れ、児童の主体的に取り組む態度を育成しようとする意図も感じられますが、単元初めにある「はい」「いいえ」の答えで進む「わくわくすいっち」は授業では活用しづらいという声もありました。

一方、「理科への窓」等、他教科を意識した構成がところどころに入れられている特徴もあります。

次に、光村図書出版についてご説明いたします。

はじめに、「絵や写真等資料のレイアウト」についてでございますが、「こんなことあるかもね」など、ところどころページの右側のイラストや他の吹き出しなど、登場人物のセリフが多様な価値観を示すものとなっております。また、イラストとの違いをつけるために写真で学習過程がわかるようにしていることも特徴です。

一方、絵本作家の書下ろしイラストは人気もあるようですが、表情が少なく児童の気持ちにつながりづらいと思われます。

次に、「体験的活動の例示」についてでございますが、子どもの活動写真が多く、「学び方のヒント」や気をつけることなどが写真やQRコードと言葉で明確にしてありわかりやすくなっております。一方、小单元ごとの振り返りで、気持ちへの問いが中心になってしまっているので工夫が必要であると思われます。また、種の植え方の説明が少ない点もあげられます。

最後に「その他」の項目でございますが、インターネットコンテンツは少なめですが、切り離して使える「きせつのなかまたち」、小冊子で「ひろがるせいかつじてん」があり、巻末に別冊としての付録がございます。

保護者の皆様へというレイアウトを用いて発信をされておりますが、生活科の教科書は学校に置いて帰ることが多く、他のことに使いたいと思われます。

そして資料が別冊で取り外すことができるという利点がありますが、紛失しやすいというマイナス面も考えられます。

最後に啓林館についてご説明いたします。

はじめに、「絵や写真等資料のレイアウト」についてでございますが、小学館LIVEと連携し、季節ごとのコンテンツを豊富に見比べることができるという特徴があります。また、単元の流れをわかりやすく示すための、「わくわく」、「いきいき」、「ぐんぐん」の3段階に構成され工夫されております。

一方、教科書のサイズが他社に比べ小さく、ページ数は多いものの大きくは他者と変わらないことから軽量という利点はございますが、写真やイラストのサイズ等、分量がやや少ないということになります。

次に「体験的活動の例示」についてでございますが、板書の例示や「学びのヒント」としての活動例が示され、教師や児童が見通しをもって活動しやすいことが挙げられます。

また、上下巻末の「がくしゅうずかん」では、活動をより楽しめるようにと、学習の仕方が紹介されており、上巻巻頭に「すたあとぶっく」が、下巻巻末に「3年生へのステップブック」が付録として追加され、接続を意識するものとなっております。

一方、下巻は上巻とやや違い、アレルギー対策の表示がないなど工夫が必要であります。

最後に「その他」の項目でございますが、交通安全に関するクイズなど児童の興味関心を高める工夫がなされており、アレルギー対応、家庭環境、地域等、様々な配慮が感じられる特徴がございます。また、QRコードから学びウェブにアクセスすると目次のあるデジタル探検ブツ

クを見ることができ動画も充実している特徴がございます。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

2つ質問があります。まず一つ目は、幼児期と小学校の接続をスムーズにするために、スタートカリキュラムが充実している教科書はどれでしょうか。2つ目は動植物の世話について教科書の工夫としてどんなものがあるでしょうか。お願いします。

(専門員)

それではまず、一つ目についてお答えします。どの教科書も学校生活が楽しくなるような言葉かけや接続を意識した写真を例示していますが、啓林館の「すたあとぶっく」は入学前の様子と入学後の写真が掲載され児童がイメージしやすくなっております。また、「交通安全ランド」の動画がありわかりやすくなっております。そして、クイズで楽しく学習できる工夫もされています。また、東京書籍は、「どきどきわくわく1年生」に豊富な写真と動画があり、通学路の安全に関する例示もされています。

続いて二つ目の質問についてお答えします。動植物の世話については、どの教科書も工夫がなされておりますが、具体的には生き物の世話をしている写真で子供の表情をアップにして意欲を引き出そうとしていることや、疑問を多く提示して、児童の興味関心を高めようとしていること、そして、具体的な世話の仕方を紹介していること等が挙げられます。以上でございます。

(議長)

よろしいでしょうか。それでは以上で生活の質疑を終了します。

専門員の方、ありがとうございました。退出してください。

(議長)

それでは、音楽について説明をお願いします。

(専門員)

これより、音楽科調査研究の結果を説明いたします。音楽科では2者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしましては、「児童の学習意欲の喚起、教師

の課題設定のしやすさについて」「楽曲の取扱いについて」「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「教育出版」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「児童の学習意欲の喚起、教師の課題設定のしやすさ」についてご説明いたします。

1つ目としまして、1年生の鍵盤ハーモニカや3年生のリコーダーの導入では、多くのページ数を費やし、多様な活動や実際の手で示された指使いの写真により、児童が意欲的に学習できるよう工夫されております。

2つ目としまして、各ページにまなびリンクとして示されたQRコードを読み取ることで、奏法や解説動画、音源、ワークシート、解説資料などにすぐに触れることができ、ねらいに迫り、必要な力が身に付けられるよう工夫されております。

3つ目としまして、音楽づくりは、教材数が多く、旋律やリズムをもとにしたものやずれの音楽など様々な活動が示されておりますが、教師の専門性の高さが求められることから、専科教員でも担任でも指導しやすくする工夫が必要であると考えられます。

次に「楽曲の取扱い」について、主なものをご説明いたします。

1つ目としまして、低・中学年では、題材のねらいに迫るために、様々な曲を聴き比べたり多くの楽曲に触れたりすることで鑑賞の楽しみを味わえるよう工夫されております。高学年では、鑑賞教材にオーケストラの楽譜や楽曲にかかわる写真等の資料が掲載され、楽曲等の魅力を感じ、〔共通事項〕を手がかりに聴くことができるよう工夫されております。

2つ目としまして、複雑なリズム・臨時記号の多い楽曲が掲載されており、指導に工夫が必要であると考えられます。

最後に「その他」についてご説明いたします。

1つ目としまして、共通教材では、教材に合わせた写真が折込を使ったワイドな紙面で示され、巻末に掲載された楽器の奏法が写真や図で示される等、視覚的に理解しやすいように工夫されております。

2つ目としまして、文字が細い、青地や緑地に黒の文字が配置されている等、ユニバーサルデザインの工夫が必要であると考えられます。

次に、「教育芸術社」についてご説明いたします。

はじめに「児童の学習意欲の喚起、教師の課題設定のしやすさ」についてご説明いたします。

1つ目としまして、全学年で、題材のねらいに沿って、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の

教材がバランスよく配置され、様々な活動を通して、音楽の力を身に付けることができるよう工夫されております。

2つ目としまして、全学年で、学習活動が、「考える(思考力・判断力・表現力等)」、「見つける(知識)」、「歌う・演奏する・つくる(技能)」で示されており、「何を学ぶか」「何ができるようになるか」かが可視化されております。

3つ目としまして、「そだてよう」として示されている活動は、常時活動として授業のはじめなどに扱うことができ、拍子感やリズム感の育成、友達と合わせて演奏する技能を高めることなどができるよう工夫されております。

次に「楽曲の取扱い」について、主なものをご説明いたします。

1つ目としまして、2年生からおまつりの音楽づくりを通して、郷土の音楽が導入されており、3年生ではお囃子、4年生では箏、5年生では尺八、6年生では箏を含む日本の合奏形態へと系統性をもった学習が行えるよう配慮されております。

2つ目としまして、歌唱や器楽では、単純なリズムや3,4拍子の曲が多いため、無理なく演奏でき、題材のねらいに迫る指導ができるよう工夫されております。

最後に「その他」についてご説明いたします。

1つ目としまして、文字の太さ・やさしい色調・題材のまとまりごとの色分け等、ユニバーサルデザインに配慮されております。

2つ目としまして、3年生から導入されるリコーダーの運指の図に指番号が示されており、学習活動を進める際の手立てとなるよう工夫されております。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

私たちは音楽に囲まれた生活をしていると思いますが、生活や社会と音楽との関わりを扱う題材が充実している教科書会社はどこでしょうか。

(専門員)

どちらの発行者も身の回りで見つけた音を音楽づくりの学習に取り入れたり、日本の伝統音楽を取り入れたり、音や音楽に関わるコラムなどを設けたりして、生活と音楽との関わりを考える活動が設定されています。以上でございます。

(議長)

よろしいでしょうか。それでは以上で音楽の質疑を終了します。
専門員の方、ありがとうございました。退出してください。

(議長)

それでは、図画工作について説明をお願いします。

(専門員)

これより、図画工作科調査研究の結果をご説明いたします。図画工作科では、2者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、【観点1】では、「自分の思いをふくらませて、知識や技能を生かして、創造的に発想や構想できるよう工夫されているかについて」、【観点2】では、「造形的な自分の見方や感じ方を深めたりすることができるように、どのような工夫がされているかについて」、そして、「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「開隆堂」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、【観点1】の「自分の思いをふくらませて、知識や技能を生かして、創造的に発想や構想できるよう工夫されているかについて」です。QRコードから活動や用具についての動画を見ることができるため、新たな学習過程を視覚的に捉えることができますとともに、今まで学んだ技法を確認しながら活動することができます。

また、児童に問いかける魅力的な題材名の提示により、自分の思いを基に創造的な発想や構想できるように工夫がされています。

次に、【観点2】の「造形的な自分の見方や感じ方を深めたりすることができるように、どのような工夫がされているかについて」です。

学習指導要領の3つの観点がキャラクターで示され、子供たちにとって短く分かりやすい目標提示になっています。また、造形的な「形や色、イメージ」と見方や感じ方ができるよう、題材の中で大切にしたい観点が、一目で分かるように工夫されています。

目次にも3つの観点が掲載されていて、題材をバランスよく学習することができます。

最後に【その他】についてです。

題材とSDGsのつながりや教科横断的な視点が詳しく書かれているため、生活や社会の中でのつながりや、多様な見方ができるようになっています。

用具の安全な使い方について、写真や動画で分かりやすく手順よく解説されているため、児童が自ら学習を進められるようになっています。

冒頭に作家作品や学びの意義がメッセージとして掲載されています。

次に、「日本文教出版」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

始めに、【観点1】の「自分の思いをふくらませて、知識や技能を生かして、創造的に発想や構想できるよう工夫されているかについて」です。手や体全体を使って生き生きと活動に取り組む姿や、素材の良さを生かしている写真が多く掲載され、作品との対話を大切にしたり、児童の思いが膨らんだりするような工夫がされています。

発想や構想を広げる言葉の文字が小さく細かく、単調なデザインであるため、視覚的に訴えられるとよいです。

次に、【観点2】の「造形的な自分の見方や感じ方を深めたりすることができるように、どのような工夫がされているかについて」です。

アートカードが付録にあり、QRコードで読み取って、ゲーム感覚で造形的な「形や色、イメージ」や新しい見方や感じ方ができるように工夫されています。

学習指導要領の3つの観点が記号で示されているが、文字の配置、大きさにインパクトがあると、子供たちに伝わりやすいです。

最後に【その他】についてです。

教科書の下の方に、用具の安全な取り扱いへの注意や片付け、SDGsでの再利用について掲載されています。また、巻末でも用具の使い方が詳しく掲載されています。

用具の使い方について擬音を使った表記がされており、視覚的だけでなく、用具を適切に扱う際の感覚が伝わりやすくなっています。

表現と鑑賞の一体化を図りながら、指導過程が工夫されています。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

他教科と関連付けて学習できるような工夫はありますか。

(専門員)

どちらの発行者も、他教科との関わりについて教科が示されていますが、特に、開隆堂は全ての題材に、他教科との関わりや具体的な活動内容が記載されているため、教科横断的な学びが期待されます。

(議長)

よろしいでしょうか。それでは以上で図画工作の質疑を終了します。専門員の方、ありがとうございました。退出してください。

(議長)

ここで10分間の休憩といたします。再開は15時30分です。
よろしくお願いいたします。

《休憩》

(議長)

再開します。保健の専門員を入室させてください。

(議長)

それでは、保健について説明をお願いします。

(専門員)

これより、体育科保健領域調査研究の結果を説明いたします。体育科保健領域では6者について調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、【観点1】「生涯にわたる健康の保持増進へ向けた思考力・判断力・表現力の育成を促しているか」、【観点2】「児童が主体的に学びに向かうような資料提示がされているか」の2つの観点を設定し、その他として、多様性・SDGsの観点についても調査を行いました。その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「【東京書籍】」についてご説明いたします。

はじめに「【観点1】」についてご説明いたします。章の始めに学習のテーマと他教科との関わりを明記しており、保健学習の広がりをもたせようとしています。また、学習過程の「調べる・解決する」という授業の中心部分を見開き1ページでまとめることで、自己の考えを周囲と共有して深めるよう工夫がされていました。

次に、「【観点2】」について、主なものをご説明いたします。写真を多用し、実生活とのつながりを意識しやすい工夫がなされていました。また、QRコードコンテンツが豊富で、視覚的に分かりやすく、必要なコンテンツをすぐに見つけられるようにしています。その中でも「思考ツール」というコンテンツは、自己の思考を深めるいい工夫でした。

最後に「その他」として、肌の色や車いす使用者など、児童に多様性を自然に意識させる表現の工夫がされていました。

次に、「【大日本図書】」についてご報告申し上げます。

はじめに「【観点1】」についてご説明いたします。章ごとの内容は最小限に抑えてあり、章の最後に「もっと知りたい」という項目を設け、学習を深め応用できるようになっていました。また、折り込みカードを使用することで、学習内容について自分の考えを持って取り組めるような工夫がされていました。

次に「【観点2】」について、主なものをご説明いたします。

QRコードリンクが貼られている「たのしい保健」サイトが工夫されていました。どのページのQRコードからでも単元ごとのページに飛び、学ぶ項目を一覧で見ることができます。また、各単元の終わりで、発見やふり返りができるページが置かれていました。対して、書き込みができるページが「つかもう」「いかそう」に重点化していましたが、「調べよう」の部分にも自分の考えが書けるような工夫があるとよいと感じました。

最後に「その他」として、SDGsについて、見開きでページが設定しており、保健学習との関わりについて明記してありました。

次に、「【大修館書店】」についてご説明いたします。

はじめに「【観点1】」についてご説明いたします。導入時に、身近な健康課題に目を向けられるような発問が設定されているのは良い工夫だと考えました。適度な記入スペースを用意して自分の考えをまとめる工夫がされていましたが、やや量は少なめでした。

次に、「【観点2】」について、主なものをご説明いたします。

著名人からのメッセージを掲載するなど、興味関心を喚起する工夫が見られました。一方で他のページで写真がもう少し活用されれば、さらなる興味関心を喚起できると思いました。情報量がやや多く、自分の考えをまとめる工夫があるとさらによいとも考えました。

最後に「その他」についてですが、多様性について4年生の発展学習にページが割かれていました。

次に「【文教社】」についてご説明いたします。

はじめに「【観点1】」についてご説明いたします。導入時に健康安全とは何かという本質的な問いをしているところは工夫されていると感じました。教科書に書き込みできるスペースが少なく、児童が自分の考えを持ったり、深めたりするためにはさらなる工夫が必要と考えます。

次に「【観点2】」について主なものを申しあげます。

「もっと考えよう課」というページが、発展学習など深い学びにつなげる工夫がなされていました。ただ、ICTでの積極的な活用には、現場での工夫が必要です。

最後に「その他」についてですが、イラストや写真からは多様性を感じさせる表現は少ないです。

次に「【光文書院】」について説明いたします。

はじめに「【観点1】」についてご説明いたします。「生かそう」という学習段階で、これからの自分の生活課題について表現する場があるのはよい工夫がされています。また「広げよう・深めよう」の段階でデジタル資料を活用し、児童がより深い学びを得るきっかけを作っていました。

次に「【観点2】」ですが、「見つけよう」「話し合おう」などの学習段階が明記されており、積極的な学びあいを促していたり、深める学習を促したりしていました。単元の導入に、児童の興味を引きつける工夫がさらにあるとよいと考えます。

最後に「学習研究社」についてご説明いたします。

はじめに「【観点1】」についてですが、どの単元でも【自分で考える】【友だちやみんなと話し合う】【学んだことを生かす】という学習サイクルで学ぶことにより、思考力・判断力・表現力を確実に身につけることができると考えられます。課題解決に向けて自分の考えを記述する場を適切に用意している点も良いと考えます。

次に【観点2】ですが、デジタルコンテンツが豊富で、ワークシートや関連リンクが豊富でした。学習の進め方の3ステップがわかりやすく表示されていて、単元の見通しを持って授業を行うことができると考えます。やや写真資料が少なく、著名人の起用も比較的少ないのが残念でした。

【その他】として、SDGs関連の記述・多様性を意識させる記述は少ない状況でした。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

各教科書では、課題解決学習についてどのような工夫として、どのようになされていますか。

(専門員)

どの教科書も、「つかむ」「考える」「話し合う」「まとめる」「ふりかえる」などの学習段階をふみ、

自身で課題に取り組めるような工夫がされていました。あとはそれぞれの段階のバランスや、自身の考えを持てるようにする工夫に各者の特色が表れています。

(議長)

よろしいでしょうか。それでは以上で保健の質疑を終了します。

専門員の方、ありがとうございました。退出してください。

(議長)

それでは、家庭について説明をお願いします。

(専門員)

これより、家庭科調査研究の結果を説明いたします。

家庭科では2者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「実践的・体験的な活動の充実について」、「問題解決的な学習への対応について」、「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「実践的・体験的な活動の充実」についてご説明いたします。

基礎的な知識・技能については「巻末資料いつも確かめよう」に記載されています。野菜の切り方など技能を習得するときに、開いて見やすいレイアウトとなっています。

しかし、安全配慮事項である「アレルギーへの対応」についての資料があまりありません。アレルギーのない児童でも必要な知識を身に付け、対応や配慮ができるようにすることも大切な学びとなります。

また、作品例や実習例などの紹介そのものの数が少なかったり、作成手順等の説明がなかったりするので、実践するにあたって教科書が参考になると活用しやすくなります。

次に「問題解決的な学習への対応」について、主なものをご説明いたします。

題材を3つのステップで展開し、課題解決に向けて考え、表現することが出来るように工夫されています。

題材のはじめに「家庭科の窓」として生活を見つめる4つの視点が示されています。この視点があることで、生活の中から課題を発見し、解決に向けて学びあうことが出来るようになります。

最後に「その他」についてご説明いたします。

各ページについているQRコードにアクセスすることで、画像や動画を見ながら学習

することが出来るようになっていきます。

また、ユニバーサルデザインの観点から、UD体を使用し、系統性を可視化できるようにマークやカラーで識別できるようにしてあります。

次に、「開隆堂」についてご説明いたします。

はじめに「実践的・体験的な活動の充実」についてご説明いたします。

調理や製作などの実習のページでは、見開き2ページを使って横流れに提示してあります。そのおかげで全体の流れの把握や、見通しを持ちやすくなります。

作品例や実習例などの紹介や作成手順等の説明があり、児童の意欲や関心が高まり、実践するときに教科書を活用することができます。

説明や資料が多く使われていますが、それぞれが小さく見にくくなっています。見ながら実践していくことが出来るようになっていると活用しやすくなります。

次に「問題解決的な学習への対応」について、主なものをご説明いたします。

導入部分では、児童の関心を引く写真やイラストが掲載されています。これらが掲載されていることで、見方や考え方を働かせ、課題を見つける手立てとなります。

題材毎に「気づく・見つける」「わかる・できる」「生かす・深める」のステップで構成されています。自分の生活の中から課題を見つけ実践し、振り返りしやすくなっています。

最後に「その他」についてご説明いたします。

各ページについているQRコードにアクセスすることで、画像や動画を見ながら学習することが出来るようになっていきます。

また、UD体を使用していたり、系統性を可視化できるようにマークやカラーで識別したり、環境に配慮された用紙やインクを使用されています。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

家庭科は子どもたちの家庭環境によって、はじめて学ぶということが多くあると思いますが、特に身につけなければならない技能のひとつとしての調理の基礎や手縫い・ミシン縫いについて、児童がより分かりやすい工夫がされているのはどんなところですか。

(専門員)

どちらも児童が自分でQRコードを読み取り、動画や資料を見ることができるよう各ペー

ジに工夫がされています。一人一台端末を手元に置いて作業ができるということは、技能の習得をしやすくなるといえます。また、どちらの発行者も、左利きの児童のために、左手で行っている動画がつけられているというのは、工夫されているところだと感じます。

(議長)

よろしいでしょうか。それでは以上で家庭の質疑を終了します。
専門員の方、ありがとうございました。退出してください。

(議長)

それでは、英語について説明をお願いします。

(専門員)

外国語科では6者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「自己表現活動」、「使いやすさ」、「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。はじめに「自己表現活動」についてご説明いたします。1つ目としまして、目的・場面・状況を意識した言語活動(伝え合う)が意図的に配置されており、単元の目標に迫ることができます。大きな括りでも目標に即した表現活動も用意されています。2つ目としまして、各単元の目標とそれに到達する活動がスモールステップで用意されていますが、最終ゴールとなる活動「Enjoy Communication」の状況設定に工夫が必要であります。

次に、「使いやすさ」について、主なものをご説明いたします。

1つ目として、ノート一体型の構成で、4技能5領域の配分において「書くこと」を重視しており、他者の約2倍の書く活動があり、児童の実態に即した時間配当の工夫が必要です。2つ目としまして、評価の観点の明確化になっており、児童が見通しをもって学習に取り組めるとともに、教師にとっても4技能5領域を意識した指導や評価がしやすい工夫がなされています。3つ目としまして、5・6年生の2か年の言語活動数が、「聞くこと」「書くこと」「話すこと(やり取り)」を中心に他者に比べて非常に多く、言語活動の内容が充実しています。

最後に「その他」についてご説明いたします。巻末の「Can-Doの樹」で、2年間の学習を見通せるようになっていきます。2か年分の別冊「My Picture Dictionary」もあり、デジタルコンテンツも充実しています。

続きまして、「開隆堂」につきましてご説明いたします。

はじめに、「自己表現活動」についてご説明いたします。1つ目としまして、主体的・対話的で深い学びを意識し、ペア・グループ・学級全体で考えや気持ちを伝え合う「話すこと(やり取り)」の言語活動が重視されており、工夫がなされています。2つ目としまして、発達段階に合わせて音声重視のインプットを重視するとともに、2時間に1回の「Small Talk」で既習の語句や表現を繰り返し使用することで定着を図るよう工夫されています。

次に「使いやすさ」について主なものをご説明いたします。1つ目としまして、単元ごとにめあてと、活動の目標が明確になっているとともに、目標までの活動の流れが一目でわかる単元チャートで見通しをもって学習ができるよう工夫されています。2つ目としまして、中学校への円滑な接続の視点から、言語材料や言語活動が中学校の学習との繋がりを強く意識した構成となっています。全ての領域と観点もバランスよく配置されています。3つ目としまして、学習効果を高めるため、他教科との関連や今日的な課題について教科横断的に深められるよう記号で示すとともに、題材も児童の興味・関心を喚起するものとなっています。

最後に「その他」についてご説明いたします。単元のそれぞれの言語活動に評価の観点が記載されているとともに、巻末の「Can-Do チェック表」での学習の振り返りはポートフォリオにもなるよう工夫されています。

続きまして、「三省堂」につきましてご説明いたします。

はじめに「自己表現活動」についてご説明いたします。1つ目としまして、5領域でも「話すこと(発表)」を非常に重視しており、他者に比べ約2～3倍もの活動が設定されています。他領域の段階を踏んでの学習も大切にする工夫が必要です。2つ目としまして、発達段階に合わせて、音声重視のインプットとともに大切となるペアやグループでの「話すこと(やり取り)」の双方向性の活動が不十分であり、モデル動画も少なく工夫が必要です。

次に、「使いやすさ」について、主なものをご説明いたします。1つ目としまして、学期ごとUnitが「Hop、Step、Jump」と段階的な構成で、学習過程における言語活動も「見て・聞いて・話して・使って」の構成で統一されています。2つ目としまして、各単元や「ABC Fun Box」や「Try」のコーナーで遊び的要素の活動を用意し、児童の興味・関心を引き、楽しみながら学習できるような工夫をしています。3つ目としまして、各学年に「Story Time」の読み物教材が多く設定されており、「読むこと」を重視していますが、英語を使用したコミュニケーション活動の充実のための工夫が必要です。

最後に「その他」についてご説明いたします。別冊で「My Dictionary」があり、その

中の「Can-Doリスト」で自己評価をすることができます。現時点でデジタルコンテンツの内容が不完全でありました。

続きまして、「教育出版」につきましてご説明いたします。

はじめに「自己表現活動」についてご説明いたします。1つ目としまして、各単元の目標を最初に「Think」のコーナーで自主的に考えさせる構成になっていますが、目標に対する最終ゴールの自己表現活動が正確に合致していないものが見られます。2つ目としまして、各単元に、ペアやグループで協働しながら対話を行ったり、相手の立場や状況を考えてながら演じてみたりする「Activity」「Final Activity」のコーナーがあります。

次に、「使いやすさ」について、主なものをご説明いたします。1つ目としまして、「Let's Say It Together」で、チャンツのように音やリズムにのりながら目標となる基本表現と一緒に発音練習できるとともに、既習事項の反復練習にも繋がっています。2つ目としまして、言語活動数が他者に比べて一番少なく、「Activity」もチャプターに分かれていません。音声モデルの発音や相槌・反応表現、「話すこと」の言語活動にも工夫が必要です。3つ目としまして、「Let's Sing」が、各単元によって扱うタイミングが違うとともに、一曲が長く、リズムが難しいものを扱っています。デジタルコンテンツの充実度にも工夫が必要です。

最後に「その他」についてご説明いたします。6年生には「My Book」が付いていて、これまでの既習事項を活用して自分のことを「書くこと」でまとめることができるよう工夫されています。

続きまして、「光村図書」につきましてご説明いたします。

はじめに「自己表現活動」についてご説明いたします。1つ目としまして、各単元の自己表現活動が、目的・場面・状況を明確にした具体的で必然性のあるものであり、大きな括りでの表現活動「You can do it」も用意され活動が充実しています。2つ目としまして、「話すこと(やり取り)」では、会話の円滑さや豊かな発話を意識し、既習事項の活用や相槌表現を充実させ、実践的なコミュニケーション能力の育成を重視しています。

次に「使いやすさ」について、主なものをご説明いたします。1つ目としまして、各学年の目標と各学年を3段階に分けたテーマ設定で、長期・短期の視点で学習の見通しがもてるとともに、スモールステップを踏みながら目標に到達できるよう工夫されています。2つ目としまして、児童の興味・関心を喚起する言語活動が他者に比べて充実していますが、精選され過ぎている傾向があり、学習の広がりや深まりは指導者側の力量が問われる内容となっております。3つ目としまして、巻末の「All about

me」で各単元の目標に即したまとめの自己表現活動を蓄積することで、1年間の自分の学習過程を振り返るオリジナルシートを作成することができます。

最後に「その他」についてご説明いたします。「Can-Doリスト」が5領域別に区別されており、児童が振り返りで自己評価ができるとともに、指導する側にとっても指導と評価の一体化に役立てることができます。

最後に、「啓林館」につきましてご説明いたします。

はじめに「自己表現活動」についてご説明いたします。1つ目としまして、インプットからミニ・アウトプットの意図的繰り返しによって、知識の活用が無理なくできるよう工夫されており、活動もペアやグループの活動場面を多く設定しています。2つ目としまして、「この英語はどんな意味だろう？」「どんな場面で使えるのだろうか？」等、言語の働きや言語の使用場面を考えさせ、目的意識をもった活動を大切にしました内容となっています。

次に「使いやすさ」について、主なものをご説明いたします。1つ目としまして、単元ごとの目標と3つの「Step」のめあても表示され、活動のゴールも明確ですが、指導の配当時数が64・65時間と余裕があり、指導者の力量が問われる内容となっています。2つ目としまして、「読むこと」「書くこと」の言語活動は、複数の単元Unitをセットにして構成されています。学期ごとに「Review」があり、パフォーマンステストとしても活用できます。3つ目としまして、イラストがシンプルで、登場人物の個性が希薄です。対話の場面絵や言語活動モデルの映像も登場人物の識別が難しい面があり、内容把握の手立てに工夫が必要です。

最後に「その他」についてご説明いたします。巻末にある「Can-Doリスト」で、児童が学習の振り返りで自己評価ができるとともに、指導する側にとっても指導と評価の一体化に役立てることができます。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

外国語を学習する上で、小中の円滑な接続についての説明を補足していただけますか。

(専門員)

児童生徒の第二言語習得の視点で、外国語・英語学習における小中の接続という視点も大い

に配慮が必要であります。どの発行者も、3、4年生での外国語活動の学習内容を土台とし、教科化となる5・6年生の教科書の内容と中学校3か年の外国語・英語学習の滑らかな接続に配慮した内容構成の工夫への努力が見られます。しかしながら、6者とも共通点もあれば、6者それぞれ独特の言語材料や言語活動の内容や構成、配置への工夫も当然のことながら異なります。小中の円滑な接続を重視し、言語材料や言語活動を意図的・効果的に系統性を持って配置して教科書の作成を工夫していますが、発行者ごとの小・中の教科書の中での工夫となっていることに配慮が必要であります。また、小学校3・4年で学習する外国語活動の文部科学省のテキストとの接続にも配慮した発行者も一部見られました。

(議長)

よろしいでしょうか。それでは以上で英語の質疑を終了します。
専門員の方、ありがとうございました。退出してください。

(議長)

それでは、道徳について説明をお願いします。

(専門員)

これより、道徳科調査研究の結果を説明いたします。道徳科では6者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「現代的な課題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での効果的な工夫について」、「考え、議論する道徳を通して、より豊かな道徳性を育成するための工夫について」、「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点1＜現代的な課題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での効果的な工夫＞についてご説明いたします。発達段階と時代に合った情報モラルの教材を扱い、身近な場面設定を基に考えられるよう工夫されています。教材とは別に情報スキルについての動画が用意されています。また、発達段階に応じてどの学年でも現代的な課題について、他教科の学習活動や家庭・地域とのかかわりを意識したコラムを組み合わせ、考えを深められるようになっています。各学年に「生命の尊さ」の教材が3つ掲載され、児童の自殺が増える9月に教材とコラムを組み合わせ生命の尊厳について考える「いのちのユニット」が配置されています。

次に、観点2＜考え、議論する道徳を通して、より豊かな道徳性を育成するための工夫＞についてご説明いたします。教材の精査を綿密に行っていることで、一方的な価

値の押し付けととらえる記述を削除するなど、多様な考えを引き出すための工夫がされています。また、デジタルコンテンツが充実しているため、全ての児童が教材に対して深く理解した上で話し合いができるような工夫がされています。

最後に、＜その他＞についてご説明いたします。QRコードが全教材についており、内容も充実しています。

次に、「教育出版」についてご説明いたします。

はじめに、観点1＜現代的な課題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での効果的な工夫＞についてご説明いたします。「情報モラル」と「いじめ問題」については全学年で重点テーマと設定されるとともに、それぞれの学年でもさらに別の重点テーマを加えるなど、6年間を通して様々な視点から考えられるよう、教材が選定されています。また、生命を尊ぶ態度を養うことができるように、全学年で3つ以上の生命尊重に対応した教材が掲載されています。さらに低学年では、重点テーマとしてユニット教材が配置されており、学びが深められるよう工夫されています。

次に、観点2＜考え、議論する道徳を通して、より豊かな道徳性を育成するための工夫＞についてご説明いたします。「問題を解決しよう」という手引があり、二分法だけでなく、問題解決的な学習ができ、児童が主体的に考え、深められるよう工夫されています。一方、役割演技を促す指示が文章の途中に入っている教材もあるため、児童の活動が誘導的にならないような工夫が必要となります。

最後に、＜その他＞についてご説明いたします。フォントや分かち書きの工夫がされています。

次に、「光村図書」についてご説明いたします。

はじめに、観点1＜現代的な課題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での効果的な工夫＞についてご説明いたします。6年間を通して、様々な現代的課題に触れられるよう、多様な教材が選定されており、より考えを深められるよう、発問が工夫されています。また、全学年で教材とコラムを合わせた情報モラルのユニット教材を配置し、情報機器を否定的に扱うのではなく、前向きに関わる態度を育成できるような問いを設定しています。「生命の尊さ」の教材では、全学年で生命の連続性、有限性などについて考え、「感じよういのち」のページで実感を伴った学びとなるよう工夫されています。

次に、観点2＜考え、議論する道徳を通して、より豊かな道徳性を育成するための工夫＞についてご説明いたします。話し合いの方法や会話例、考えの道筋などがイラストで提示されているページが多く、どの児童も安心して発言できるよう工夫されています。一方児童が考え、議論するための手立てとなる思考ツールの紹介を導入するな

どの工夫が必要です。

最後に、＜その他＞についてご説明いたします。学びの記録やシールが付属されていますが、活用の難しさがあります。

次に、「日本文教出版」についてご説明いたします。

はじめに、観点1＜現代的な課題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での効果的な工夫＞についてご説明いたします。全学年に発達の段階に応じた情報に関する教材や情報モラルを扱った教材が、コラムと組み合わせて掲載され、情報活用能力をはぐくむことができるよう配慮されています。また、「生命の尊厳」にかかわる教材では、生命について多面的・多角的に考えられるよう、発達の段階に応じた教材が掲載されています。また、いじめ防止につながる教材を年3回に分けて集中的に取り扱っており、児童に繰り返し考えさせる工夫がされています。一方、「生命の尊さ」の項目の教材が、高学年では、低・中学年より1つ少なくなっています。

次に、観点2＜考え、議論する道德を通して、より豊かな道德性を育成するための工夫＞についてご説明いたします。アニメーションなどのQRコンテンツが充実しているため、ねらいとする道德的価値について全員が共通認識を持ったうえで話し合えるような工夫がされています。また、具体的な役割演技の提案や登場人物の心情の変化を図式化して整理するなど、児童が主体的に話し合い多様な実践活動が行えるよう工夫されています。

最後に、＜その他＞についてご説明いたします。道德ノートについては、ノート記入が義務的になる恐れがあります。

次に、「光文書院」についてご説明いたします。

はじめに、観点1＜現代的な課題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での効果的な工夫＞についてご説明いたします。情報モラルは特に配慮が必要な項目ととらえ、全学年において情報モラルの教材やコラムを設け、身近な話題を通して、情報モラルを学習できるように配慮されています。また、全学年で「生命の尊厳」を重点課題とし複数時間構成で取り扱い、多面的・多角的に深く考えながら自他の命を大切にしていく態度を育成できるように配慮されています。多くの教材にレジリエンスの視点を持つことで、児童自身の「心の力」について考える工夫がなされ、全学年にコラムが設けられています。

次に、観点2＜考え、議論する道德を通して、より豊かな道德性を育成するための工夫＞についてご説明いたします。発達の段階に応じた思考ツールが掲載されているため、どの児童も共通の土俵で考え、議論することができるような工夫がされています。また、考え、まとめ、広げるという授業展開の提案がされており授業で議論したこ

とが日常生活で生かされるよう工夫されています。

最後に、＜その他＞についてご説明いたします。児童の教材に対する理解を深めるための補助資料が充実しています。

次に、「学研」についてご説明いたします。

はじめに、観点1＜現代的な課題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での効果的な工夫＞についてご説明いたします。最重要テーマを「いのちの教育」とし、「いのちのユニット」では、異なる内容項目の教材を組み合わせ、多面的・多角的にテーマについて考えられるよう工夫されています。一方、現代的な課題のなかでもジェンダー問題・性差の取扱いについての記述が少なく、取り扱いの工夫が必要となります。また、「いのちのユニット」では、2つの教材の内容項目の組み合わせの意図がわかりづらい学年があります。

次に、観点2＜考え、議論する道德を通して、より豊かな道德性を育成するための工夫＞についてご説明いたします。特定の価値観の押し付けや固定概念にとらわれることがないように、教材に対する主題名を記載しない工夫がされています。一方、教材文は結末までを記載しているものが多く、結末を予想するなど児童の多様な意見を引き出すための工夫が必要となります。

最後に、＜その他＞についてご説明いたします。心情表現が記述されている教材が多いため、思考が限定される可能性があります。

説明は、以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

経験が浅い教員でも充実した道德科の授業ができるようにするため、各教科書会社ではどのような工夫がなされていますか。

(専門員)

各教科書会社にそれぞれ工夫がみられます。それぞれの発行者についてご説明いたします。

東京書籍ですがデジタル教材が充実しています。場面絵を拡大したり、順番に見たりすることができます。また、難しい言葉や概念を写真やイラストで解説している補助資料があります。人物紹介・思考ツールも用意されています。

教育出版ですが、指導書の内容が充実しています。発問ごとの児童の反応例が多く、

	その発問の狙いや留意点が詳しく書かれています。 光村図書は、指導書の授業展開例が充実しています。「主体的な学び」「対話的な学び」など見出しを立て、声かけや活動の場の設定など分かりやすくなっています。 日本文教は、低学年から高学年、中学校まで指導内容項目を一覧にし、発達段階を見通した授業に役立つようになっています。 光文書院については、児童用教科書に、「考える(2つ)→まとめる→ひろげよう」という流れで4つ考えるポイントが掲載されており、主体的に児童が活動できるようになっています。 学研は指導が単調にならないように、「教材をより深く理解するために」という項目があります。以上でございます。 (議長) よろしいでしょうか。それでは以上で道徳の質疑を終了します。 専門員の方、ありがとうございました。退出してください。
5 諸連絡	(議長) これで全ての種目の報告が終わりました。以上をもちまして、議長の任を解かさせていただきます。本日は、長時間にわたりありがとうございました。
6 閉会	(事務局) (司会)